

香川県地域包括ケアシステム学会 第4回 学術集会

プログラム・抄録集

Kagawa Society of
Community-based
Integrated
Care System



日 時

令和3年12月19日（日）
9:30～16:30

会 場

レクザムホール5階
多目的大会議室「玉藻」
Zoom配信（ハイブリッド形式）

- 主催 香川県地域包括ケアシステム学会
- 担当 香川県薬剤師会

本プログラム・抄録集内の画像や文章等内容の無断転載・使用を
固く禁じます (SNS・HP 等も含む)。



ご挨拶

香川県地域包括ケアシステム学会理事長
香川県医師会会长

久米川 啓

一昨年1月に香川県地域包括ケアシステム学会を立ち上げ、その後、何度も会議を重ね、少しづつ会の形が整ってきました。そして、この度、第4回の学術集会を開催する運びとなりました。開催にあたり、ご尽力いただきました理事や各部会の皆様、今年度担当の久間会長・安西前会長を始めとする薬剤師会の先生方に深く感謝を申し上げます。

今回のテーマは「くすり～多職種から見て思うこと～」です。薬は人体に対して色々な作用を及ぼしますが、患者さんにとって好ましい作用以外は、そのすべてが不必要的作用です。また、多数の薬を服用することによって、思わぬ副作用が出現することがあります。今回の学術集会を通して、医師や薬剤師の皆様は勿論、今まで薬に深く関わることがなかった職種の皆様にとっても、是非薬について、様々な面から考える一日になれば幸いです。

今回は特別講演として、東京女子医科大学病院リハビリテーション科教授の若林 秀隆先生にご講演いただきます。老化が進むとフレイル状態に陥り、活動が低下することが知られていますが、まず栄養状態を改善し、フレイル状態を改善することで、リハの効果が上がると考えられています。合わせて薬についても考えることは、さらにリハの効果を最大限まで高めることに繋がります。若林先生はこれらリハ栄養及びリハ薬剤の第一人者でおられますので、普段リハに携わっている方のみならず、全ての職種の皆様に是非ご講演を聴いていただきたいと思います。

今回も各団体からの一般演題を募集しました。今回は地域包括ケアシステムに関する演題なら何でも可としたところ、計14題の応募がありました。抄録を拝見すると、どれも大変興味深い内容ばかりで、是非とも拝聴させていただきたいと思います。また、今回のシンポジウムも、県内の医療・介護の様々な職種の方がシンポジストとなっており、色々な職種の目線から薬について考えるシンポジウムとなっておりますので、最後までご参加いただきますようお願いします。

今回の新型コロナウイルス感染症の流行で実際に患者さんに接する難しさもありましたが、今後さらに地域包括ケアシステムの重要性が高まっていると感じています。まだまだコロナに翻弄されて大変なことが多いとは存じますが、多職種連携を深化させ、県内において、よりよいシステムを構築できるよう本学会も引き続き尽力してまいりますので、皆様におかれましては、今後とも温かいご理解と一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本学術集会開催にあたり、ご尽力いただきました皆様に心より感謝とお礼を申し上げまして、私からのご挨拶といたします。



ご挨拶

第4回学術集会大会長
香川県薬剤師会会长

久間一徳

第4回学術集会は、香川県薬剤師会の担当で「くすり～多職種から見て思うこと～」をテーマに開催いたします。新型コロナウイルス感染拡大がまだ予断を許さないため本年度も昨年度に続き、感染防止対策を講じた上での会場参加とWeb参加によるハイブリッド形式の開催となりました。このことにつきましては、関係者皆様のご理解を賜り心より感謝申し上げます。

薬局・薬剤師はこれまで医薬品という「物」に対する業務を主に行っていましたが、近年は患者様という「人」に対する業務に重きを置かれています。これは、薬剤師が調剤時の服薬指導の際に患者様との接点を持つだけでなく、必要に応じて患者様が服用する医薬品の飲み合わせや副作用の発生等を調剤後も継続的に把握し、さらには得られた服薬情報等について処方した医師等と連携するなど対人業務の充実に取り組んでいます。「団塊の世代」が全て75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう地域の特性に応じて、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築の実現が必要とされている中、薬剤師・薬局も、地域包括ケアシステムにおいて医療・介護・予防の一翼を担い、医療機関等や他職種と連携して適切な役割を果たすことが課題と考えています。

今回の集会では、特別講演として、東京女子医科大学病院リハビリテーション科教授の若林秀隆先生に「生活機能を高めるリハ栄養とリハ薬剤」についてご講演いただきます。シンポジウムの基調講演では三豊総合病院薬剤部副薬剤部長の篠永浩先生による「多職種連携による薬学的課題への取り組み方～入院・外来・地域を繋ぐために～」のご講演に続き、医師・看護師・介護支援専門員・薬剤師それぞれの立場から現場での取り組みをシンポジストとしてお話しいただきます。また、今回の一般演題は多職種から計14題予定されており、様々な職種、団体の取り組みを知ることができ今後の活動の参考になれば幸いと考えます。

地域包括ケアシステム構築の実現目標まで残すところあとわずかとなりましたが、本学術集会が活発な議論や情報交換の場となり、そして多職種の活動や考え方を知りお互いの連携推進の一助になるよう期待します。

本年も新型コロナ禍の中にも関わらず学術集会開催にあたりご尽力いただきました関係者の方々に感謝とお礼を申し上げ、挨拶といたします。

目 次 | 香川県地域包括ケアシステム学会 第4回学術集会 プログラム・抄録集

ご挨拶	1
プログラム	4
会場図	6
特別講演	7
シンポジウム	21
一般演題(No.01~14)	49

香川県地域包括ケアシステム学会 第4回学術集会

プログラム

<テーマ>

くすり～多職種から見て思うこと～

日 時 令和3年12月19日（日） 9：30～16：30
会 場 レクザムホール5階 多目的大会議室「玉藻」
Zoom配信（ハイブリッド形式）

（敬称略）

総合司会：香川県薬剤師会専務理事 山本 和幸

9：30～9：50 開会式

主催者挨拶

香川県地域包括ケアシステム学会理事長 久米川 啓
香川県地域包括ケアシステム学会 第4回学術集会大会長 久間 一徳

来賓挨拶

香川県知事 浜田 恵造
厚生労働省四国厚生支局長 尾崎 俊雄

9：50～10：50 特別講演

座長：香川県薬剤師会副会長 木村 昭代

「生活機能を高めるリハ栄養とリハ薬剤」

東京女子医科大学病院リハビリテーション科教授 若林 秀隆

<10：50～11：00 質疑応答>

11：00～11：10 部会報告

11：10～12：10 一般演題 No.1～6

座長：香川県薬剤師会副会長 小坂 信二
香川県薬剤師会理事 原 丈晴

12：10～13：00 休憩

(敬称略)

13:00 ~ 14:20 一般演題 №7~14

座長：香川県薬剤師会常務理事 正木 浩二
香川県薬剤師会理事 松原 加奈

14:30 ~ 16:30 シンポジウム

座長：香川県薬剤師会副会長 篠原 幸雄
香川県医師会常任理事 大原 昌樹

基調講演

「多職種連携による薬学的課題への取り組み方
～入院・外来・地域を繋ぐために～」

三豊総合病院薬剤部副薬剤部長 篠永 浩

シンポジスト①：薬剤師

「多職種連携をより進めていく為に必要な薬局薬剤師の関わり方
～地域の高齢者に対する介護予防・健康増進等の活動を通して～」

観音寺・三豊薬剤師会会长・株式会社快生堂代表取締役 矢野 順浩

シンポジスト②：医師

「地域医療と処方箋」

綾川町国民健康保険綾上診療所所長 十枝めぐみ

シンポジスト③：看護師

「この街で共に支え合う体制の強化に向けて
～支え合う仲間としての連携と関係構築～」

香川県看護協会高松ケアステーションみちしるべ所長 長内 秀美

シンポジスト④：介護支援専門員

「在宅生活におけるかかりつけ薬局との連携
～在宅で少しでも長く生活していくために～」

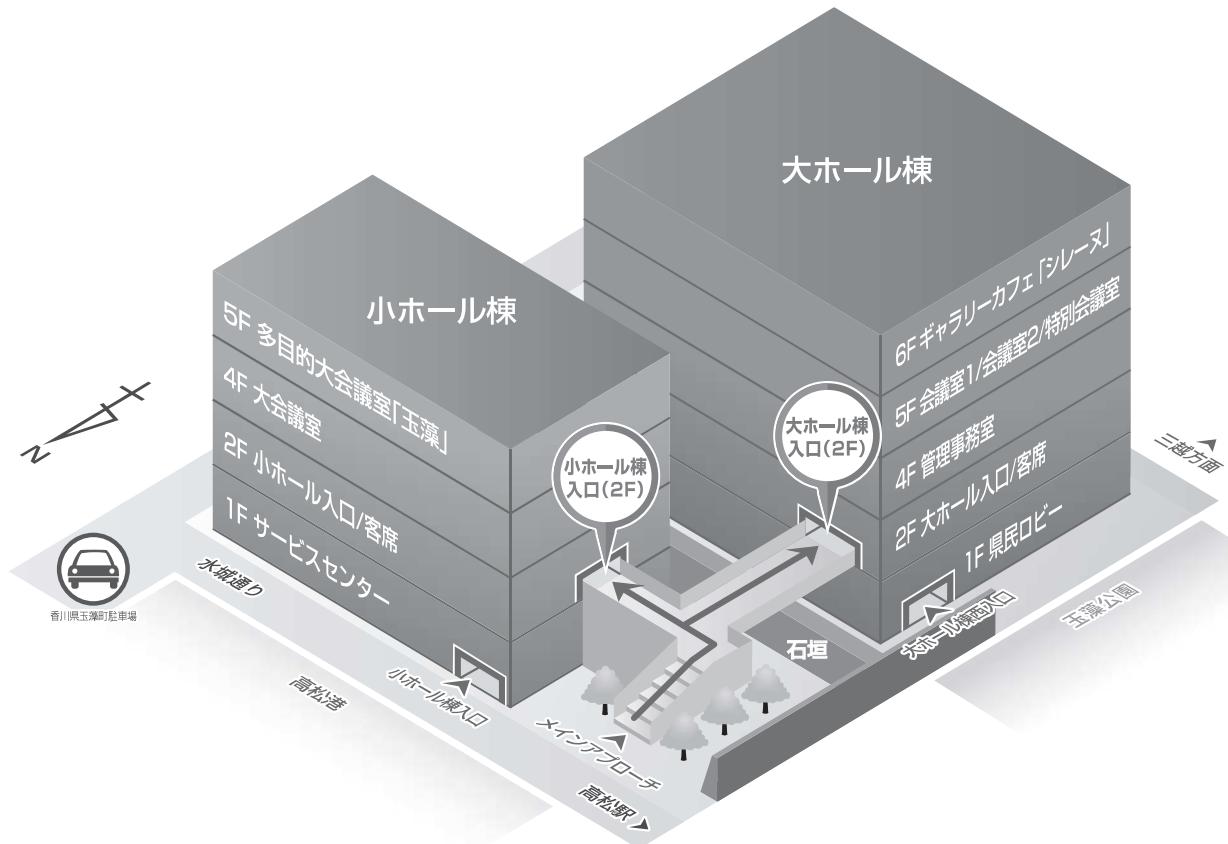
香川県介護支援専門員協議会理事・マーブル管理者 住久 友見

総合討論

16:30 閉会挨拶

国立大学法人香川大学学長 篠 善行

【会場】レクザムホール 小ホール棟5階 多目的大会議室「玉藻」



アクセス MAP



■JR高松駅から徒歩8分

各方面からJR利用、終点高松駅下車で徒歩8分
各方面から高速バス利用、終点高松駅下車徒歩8分

■駐車場のご利用

ホール専用の駐車場はございません。ホール北側の「玉藻町駐車場」をはじめ、ホール周辺の有料駐車場のご利用をお願いいたします。

各駐車場は台数が限られており、駐車できない場合がございますので、公共交通機関のご利用をおすすめいたします。車椅子でお越しの方や移動に配慮が必要な方は思いやり駐車場をご利用ください。

特別講演

(敬称略)

座長：香川県薬剤師会副会長 木村昭代

「生活機能を高めるリハ栄養とリハ薬剤」

東京女子医科大学病院リハビリテーション科教授
若林秀隆

シンポジウム

(敬称略)

座長：香川県薬剤師会副会長 篠原幸雄
香川県医師会常任理事 大原昌樹

「多職種連携による薬学的課題への取り組み方 ～入院・外来・地域を繋ぐために～」

三豊総合病院薬剤部副薬剤部長 篠永浩

「多職種連携をより進めていく為に必要な薬局薬剤師の関わり方 ～地域の高齢者に対する介護予防・健康増進等の 活動を通して～」

観音寺・三豊薬剤師会会长
株式会社快生堂代表取締役 矢野禎浩

「地域医療と処方箋」

綾川町国民健康保険綾上診療所所長 十枝めぐみ

「この街で共に支え合う体制の強化に向けて ～支え合う仲間としての連携と関係構築～」

香川県看護協会高松ケアステーションみちしるべ所長 長内秀美

「在宅生活におけるかかりつけ薬局との連携 ～在宅で少しでも長く生活していくために～」

香川県介護支援専門員協議会理事
マーブル管理者 住久友見

一般演題 <No.01～06>

(敬称略)

座長：香川県薬剤師会副会長

小坂信二

香川県薬剤師会理事

原丈晴

11:10～12:10

- 01 地域におけるダブル・トリプルケア、ヤングケアラーの現状
—ヤングケアラーに着目して—

香川大学医学部看護学科（看護師）

松本 啓子・他

- 02 特定健康診査における血糖値の分布からみた
糖尿病予備軍と推定される者の割合

香川大学医学部看護学科（保健師）

芳我ちより・他

- 03 在宅医療にて超飢餓状態から栄養療法、摂食機能療法による
アプローチにて QOL が向上した一例

医療法人社団駿陽花 しもむら歯科医院（歯科医師）

下村 隼人

- 04 急性期病院におけるポリファーマシー対策の取り組み

香川県立中央病院薬剤部（薬剤師）

安部 浩美・他

- 05 地域包括ケア病棟から自宅退院した患者・家族の現状
—退院 2 週間後の電話訪問を試みて—

高松市立みんなの病院（看護師）

須藤 正明

- 06 筋萎縮性側索硬化症を発症し人工呼吸器を装着した
症例に対する訪問看護の関わり

訪問看護ステーションわかな（理学療法士）

成田 知弘

一般演題

〈No.07～14〉

(敬称略)

座長：香川県薬剤師会常務理事

正木 浩二

香川県薬剤師会理事

松原 加奈

13:00～14:20

- 07 全国に先駆けて立ち上げた「香川県医療的ケア児等支援センターソダテル」の役割について

香川県健康福祉部障害福祉課 福家 裕司

- 08 地域包括ケアシステムにおける歯科診療所の役割
～オーラルフレイル対策について～

医療法人社団あらき歯科クリニック（歯科医師） 荒木 哲也・他

- 09 薬局薬剤師と多職種の連携が患者の薬物治療やQOLに貢献した事例

AIN薬局塩上店（薬剤師） 大山 寿代・他

- 10 加工食品を取り入れた食事支援

香川県栄養士会（管理栄養士） 内海 朝代

- 11 臨床検査技師としての地域医療への貢献

海部医院（臨床検査技師） 小林 万代・他

- 12 高松市における地域ケア個別会議への参画
～作業療法士の変遷と専門性～

医療法人社団研宣会 広瀬病院 リハビリテーション部（作業療法士） 田村 篤史

- 13 かがわ総合リハビリテーションセンターにおける補聴器外来の現状と課題

かがわ総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部（言語聴覚士） 荻田 早織

- 14 在宅移行における調剤薬局との連携
～くらしとくすりをつなぐ～

独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター 地域医療連携室（医療ソーシャルワーカー） 松尾亜希子・他